

特集
2

ジェネリック医薬品とは

お薬代が安くなるって本当?

ジェネリック医薬品をご存知ですか?

病院や調剤薬局、テレビや新聞などでジェネリック医薬品という言葉を目にしたことのある方も多いのではないのでしょうか?

薬には、同じ成分・同じ効果の「先発医薬品」と「ジェネリック医薬品」があります。

「先発医薬品とは?」

新しく開発・発売された新薬を先発医薬品といいます。

製薬会社が新薬を開発するためには、研究に二十〜三十年の年月と莫大な費用がかかります。

そのため、新薬として最初に発売された薬は特許に守られ、開発したメーカーが独占的にその薬を製造販売することができます。

「ジェネリック医薬品とは?」

先発医薬品は特許に守られ、他の製薬会社が製造・販売すること

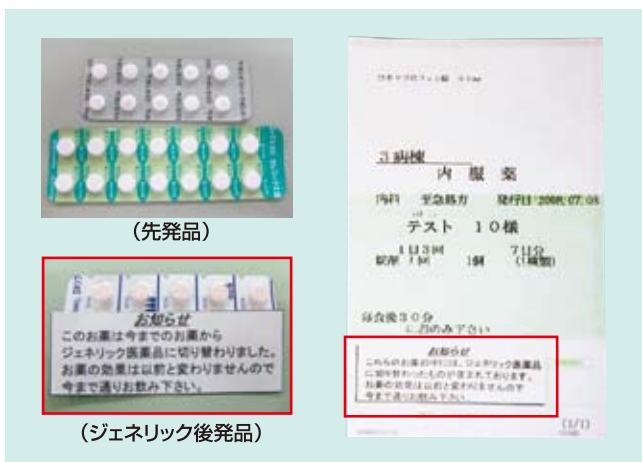
はできませんが、二十年〜二十五年の特許期間が切れると、他の製薬会社も同じ成分・同じ効果の薬を製造できるようになります。

こうして製造される薬がジェネリック医薬品で、先発医薬品に対して、後発医薬品とも呼ばれます。特許期間が切れないとジェネリック医薬品を製造・販売することができないため、全ての薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。

「実際にどれだけ安くなるの?」

すでに受け取られたお薬が、ジェネリック医薬品に変わっている患者様もおられることと思います。当院薬剤部では当面の間、ジェネリック医薬品に変更になったお薬について、お知らせの紙をつけてお渡しして行きます。

現時点では、院内・院外ともに同じジェネリック医薬品を供給できるよう後発医薬品推進委員会で決定したジェネリック医薬品を処方しております。



当院では、四月二十三日からの一部ジェネリック医薬品への変更で、解熱・鎮痛・抗炎症薬、胃薬、去痰薬、抗生物質、下剤、血圧降下剤、高脂血症治療薬、利尿薬などの一部を変更しております。ジェネリック医薬品になることで薬代の負担がどれだけ減るのか当院での薬の例を実際に示します。

あくまでも当院切り替えジェネリック医薬品の一例ですが、特に長期に渡って飲み続けることが大切な薬では薬代の差額は大きくなつてきます。

今後当院では安心して患者様が治療を受けていただけるよう、より安全なジェネリック医薬品の採用を進めて行く予定です。

ジェネリック医薬品に関して、何かご不明な点がありましたら、お気軽に薬局窓口にお聞きください。



薬剤部長 寺林 久幸

〈当院で先発医薬品からジェネリック医薬品へ切り替わった薬に一例〉 【高血圧の薬(1日1回、1回1錠内服の場合)】

(一般名:マレイン酸エナラプリル)

	先発医薬品	ジェネリック医薬品	差 額
1日あたりの薬価	83.70円	23.40円	60.30円
1ヶ月(3割負担の場合)	720.00円	180.00円	540.00円
1年間(3割負担の場合)	8,760.00円	2,190.00円	6,570.00円

【痛み止め(1日3回、1回1錠内服の場合)】

(一般名:ロキソプロフェンナトリウム)

	先発医薬品	ジェネリック医薬品	差 額
1日あたりの薬価	66.90円	27.00円	39.90円
1ヶ月(3割負担の場合)	630.00円	270.00円	360.00円
1年間(3割負担の場合)	7,665.00円	3,285.00円	4,380.00円

これらの薬代はあくまでも一例です。必ずしも、同じ差額があるとは限りません。また、特許が切れていないお薬や、当院がジェネリック医薬品を取り扱っていない場合は、手に入らないことがあります。

先発医薬品(新薬) ジェネリック医薬品(後発医薬品)



お薬も他の発明品と同じように特許で守られているんだね

新しいお薬も特許期間が過ぎると同じ薬が作れるんだよ

ジェネリック医薬品が先発医薬品よりなぜ安いのか?

ジェネリック医薬品の成分はすでに先発医薬品で使われており、有効性も安全性も確認されています。そのため、承認までの手続きが少なくなります。新薬の開発に比べて開発や研究にかかる時間・費用が少ないため、国が新薬の二〜八割の価格に設定しています。

先発医薬品 ジェネリック医薬品



先発医薬品の開発って大変なんだね

お薬の値段は、国で決められているんだよ

「当院でのジェネリック医薬品は?」

当院では患者様に安心してジェネリック医薬品を使用していただけるよう、後発医薬品推進委員会を設置し、先発医薬品からジェネリック医薬品への切り替えを検討・決定しております。第一回目として、四月二十三日に内服薬二十種類・注射薬二種類を、第二回目として六月十六日に内服薬九種類、第三回目として七月二十三日に内服薬九種類を後発医薬品へ変更しております。